

なるほどよくわかる病気あれこれ

【第73回】こつしょうしょうせいいたいこっせつ骨粗鬆症性椎体骨折

近年、超高齢社会を迎え、それに伴い知力や体力の衰えによる疾病や外傷が増加しています。骨粗鬆症性椎体骨折も増加傾向にあるようです。ちなみに、最近2年間で同疾患で当院整形外科へ入院された方は140人ほどで、整形外科全入院患者の約26%でした。

骨粗鬆症性椎体骨折は、こつせいじゃくせい骨脆弱性のため、転倒や中腰仕事等軽微な外力で起こる背骨の骨折で、多くは強い腰や背中しっぺいの痛みを伴いますが、体動困難になることもあります（身に覚えのない、いつの間にか骨折もありますが）。3～6カ月の間コルセットを装着、リハビリ、薬剤治療で痛みは軽減されることが多いのですが、背骨のつぶれによる脊柱管狭窄症が問題になることもあります。



最近、薬剤治療が推奨されてきております。高額ではありますが、各種注射製剤が使われます。これは、同じ患者さまの2度目、3度目の骨折を防ぐ効果も大きいとのこと。一方、下肢運動麻痺、排尿障害、こつゆこうろせん骨癒合不全で疼痛持続の場合は、手術を必要とすることもあります。

予防が大切ですので、適度な運動、日光浴（ビタミンD）、カルシウム摂取をお願いします。ご不明な点等ございましたら、お気軽にお声がけください。

整形外科 黒川 紘二

♪♪♪ MRIってなんでうるさいの？ ♪♪♪

MRI検査は、大音量で様々な音が発生する検査であり、その音はまるで「工事現場」といわれる程です。大きな音の原因は、装置内の「傾斜地場コイル」と呼ばれる部分が振動することにより発生し、装置の構造上どうしても音が鳴ってしまいます。

初めてMRI検査を受けられる患者さまは、約30分もの間、大きな音が鳴り響くなかで過ごさなくてはならないため、多少の驚きと不安を覚えるかもしれません。

MRI装置の音対策として、検査室内のスピーカーとヘッドフォンで音を和らげて快適に過ごして頂ける様に音楽を流しています。他にも防音アイテムとして、遮音に優れる防音イヤーマフ（耳当て）、耳栓を備えており、音楽に関しましては演歌や歌謡POPS等の音源も少々ご用意しています。

MRI検査において、不安なことや不明な点、ご要望がありましたら遠慮なく担当技師にお伝え下さい。



放射線科 主任 五十嵐 拓